



Intergenomics

第 54 回

インターゲノミクス セミナー

神戸大学大学院・農学研究科
インターゲノミクス研究会 主催
(若手研究者育成支援経費)

日時：11月19日（金）15時00分より 場所：農学部 B401

Zoom： <https://kobe-u-ac-jp.zoom.us/j/87699454948?pwd=U1V0cnBIS0pJK05IT3lxeWhvcktuUT09>
ミーティング ID: 876 9945 4948、パスコード: 744398

「次々湧き出る感染症～今ある病原性ウイルスと戦いつつ
次の勃興に備える～」



15:00 はじめに

15:10 君はコッホの原則を満たせるか？新たな感染症発見の裏側

松野 啓太 先生（北海道大学 人獣共通感染症国際共同研究所）

要旨内容：我々は2019年に北海道でマダニに刺された後に高熱・歩行困難を呈した患者より、未知のオルソナイロウイルスを発見しエゾウイルスと命名した。その後の研究により、合計で7名のエゾウイルス感染者が発見され、北海道の野生動物も感染していることが明らかとなった。シーケンス技術の発展により、エゾウイルスのような未知のウイルスを発見することは極めて容易となった一方で、古典的なウイルス学的手法の重要性も浮き彫りになってきている。本セミナーではエゾウイルスを題材に、新しい感染症発見の裏側での地道な奮闘をご紹介したいと思う。新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の例からも明らかのように、21世紀になっても人間社会の近くに存在する病原ウイルスがすべて把握されているわけではない。人類と新興ウイルス感染症との戦いはまだ始まったばかりである。

16:10 ウイルスによる宿主への感染戦略

岡本 徹 先生（大阪大学 微生物病研究所 高等共創研究院）

要旨内容：現在の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)によるパンデミックは言うまでもなく、これまでもSARSコロナウイルス、MERSコロナウイルス、インフルエンザ、ジカウイルスなどさまざまなウイルスが話題となりました。また、ヒト免疫不全ウイルス、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスは、ヒトに持続的に感染し免疫不全症や肝疾患を引き起こします。このように新型コロナウイルスだけではなく、ヒトに重篤な疾患を引き起こすウイルス感染症は多く存在します。これらのウイルスに対し、感染防御、重症化の抑制につながるワクチン開発や抗ウイルス薬の開発、さらに基礎研究は大切な検討課題だと考えています。私はC型肝炎ウイルス(HCV)をはじめとするフラビウイルス科ウイルスの基礎研究と抗ウイルス薬に関する研究を進めています。さらには、SARS-CoV-2のパンデミックに対して、何か自分たちができることはないかと考え、いくつかのSARS-CoV-2に関する研究を進めてきました。今回の発表ではこれまでに取り組んできた私たちのウイルスの感染戦略を解き明かす基礎研究から抗ウイルス薬の開発に関する研究内容をご紹介させていただきたいと思っています。

17:15～ 総合討論

世話人：松尾 栄子

お問い合わせ 藍原 祥子（農学研究科 生命機能化学専攻 食品・栄養化学研究分野）
TEL: 078-803-5877 E-mail: y.aihara@people.kobe-u.ac.jp